

【CEC（陽イオン交換容量）】

- ・土壌がどの程度肥料分を保持できるかを示す
- ・数値が高いほど肥料を保持する能力が高い
- ・CECが低いほど肥料を保持する能力が低い
ため、肥料が逃げやすい

【りん酸吸収係数】

- ・土壌にりん酸を施用しても、土壌に吸着され植物が吸収できない形となりやすい。これを数値化したもの
- ・火山灰土壌では非常に強く、沖積土壌では弱くなる

【pH】

- ・土壌が酸性かアルカリ性かを示す
- ・7が中性で、7未満が酸性、7を超えるとアルカリ性
- ・pHが適正でないと、微量要素などの養分が溶けず欠乏症状が発生したり、溶けすぎて過剰障害が発生しやすくなる

【交換生塩基（石灰・苦土・加里）】

- ・土壌にあり、植物に吸収されやすい形のもを交換性という。
- ・塩基とは、石灰、苦土、加里である
- ・適正範囲は、CECにより異なる

【塩基飽和度】

- ・肥料を保持できる量のうち、何%に塩基成分が保持されているかを示す。100%を超えていれば、土の能力以上に肥料がある。
- ・数値は、石灰飽和度＋苦土飽和度＋加里飽和度
- 【石灰、苦土、加里飽和度】
- ・肥料を保持できるの量のうち、何%が石灰、苦土、加里で満たされているかを示す

【可給態りん酸】

- ・土壌に含まれるりん酸のうち、作物が吸収できる量
- ・りん酸は土壌を移動しにくい

「Dr. 大地」 土壌診断処方箋

分析番号 作物名 分析者
 農家名 住所 電話番号
 ほ場通称 所在地 採土位置 ~ cm
 ほ場面積 10a 改良深 10cm 土壌種類 不明 仮比重 1.0 採土日

〈土壌分析結果〉

土の性質を表す項目	分析値
CEC	20.0
りん酸吸収係数	1200
腐植	-

資材選択

大地くん初期値	
改良目標値設定	
適正範囲の下限	

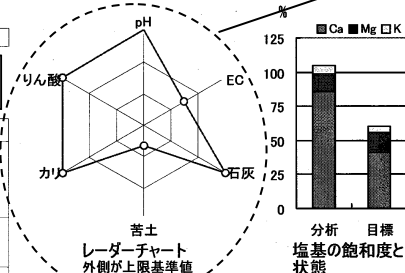
項目	分析値	適正範囲	判定
pH(H ₂ O)	7.1	6.0 ~ 6.5	高すぎ
pH(KCl)	-		
EC	0.09	0 ~ 0.20	適正
アンモニア態窒素	-		
硝酸態窒素	-		
（交換性石灰）	478	230 ~ 314	高すぎ
交換性苦土	53	60 ~ 81	低い
（交換性加里）	59	38 ~ 47	高すぎ
塩基飽和度	104.7	60.0 ~ 80.0	高すぎ
（飽和石灰飽和度）	85.2	41.0 ~ 56.0	高すぎ
苦土飽和度	13.2	15.0 ~ 20.0	低い
（加里飽和度）	6.3	4.0 ~ 5.0	高すぎ
石灰/苦土比	6.5	4.0 ~ 8.0	適正
苦土/加里比	2.1	2.0 ~ 4.0	適正
可給態りん酸	100.6	10.0 ~ 30.0	高すぎ
可給態けい酸★	-	- ~ -	
易還元性Mn★	-	- ~ -	
遊離酸化鉄★	-	- ~ -	
可給態マンガン	-	4.0 ~ 8.0	
可給態ほう素	-	0.80 ~ 2.00	
可給態鉄	-	8.0 ~ 10.0	
可溶性銅	-	10.0 ~ 30.0	
可溶性亜鉛	-	8.0 ~ 40.0	

【コメント】

★は水田のみの項目

pH、石灰とも高いので、石灰質資材の施用は必要ありません。りん酸は特に多いので、施用しないで下さい。加里に比べ苦土が少ないので、硫酸苦土を施用して下さい。

長野農業改良普及センター
印刷日 2005年11月10日



〈資材施用量〉 (改良目標値は適正範囲の下限に設定)

要素	資材名	10aあたり*1	(ほ場10aあたり)*2
りん酸			
カリ			
石灰			
苦土	硫酸苦土(硫マグ)	30	30
けい酸			
(微量元素)			
マンガン			
ほう素			
鉄			
亜鉛			
銅			

*1: 10aあたり・改良深10cmでの施用量

*2: 当ほ場面積・改良深での施用量

斜体・☆: 単年での施用上限量超過のため、制限しています

※りん酸 カリが高すぎますので、施肥量を減らすようにして下さい。
石灰が高すぎますので、施肥しないようにして下さい。

【レーダーチャート】

- ・外側が上限基準値、内側が下限基準値
- ・外側と内側に○があればよい
- ・外側にはみ出ているものは、施用する必要なし

【資材名・施用量】

- ・土壌診断結果により「大地くん」が計算した土壌改良資材の量

【塩基バランス】

- ・塩基（石灰、苦土、加里）のバランスを示す
- 石灰の吸収は苦土、加里の多用で抑制
- 苦土の吸収は加里の多用で抑制
- 加里の吸収は石灰、苦土の多用で抑制
- ・算出方法
- 石灰／苦土比＝
(交換性石灰／28) / (交換性苦土／20)
- 苦土／加里比＝
(交換性苦土／20) / (交換性加里／47)

パソコンが考えたコメント

分析者が考えたコメント